【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成29年4月6日(2017.4.6)

【公表番号】特表2016-523153(P2016-523153A)
【公表日】平成28年8月8日(2016.8.8)
【年通号数】公開・登録公報2016-047
【出願番号】特願2016-522450(P2016-522450)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｍ　5/168　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｍ　5/168　５００

【手続補正書】
【提出日】平成29年3月3日(2017.3.3)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
図３に、スプリング２８がデテント２６を前記星形状における谷間２２へと押圧する、調節ディスク１４の安定な位置が示されている。選択ホイール１２を回してこの調節ディスク１４を回転させるには、スパイラルスプリング２８がデテント２６を介して調節ディスク１４の外縁に加える力に対抗する力を印加する必要がある。隣り合う谷間の間にある途中位置への不用意な調節が行われた場合、調節ディスク１４は必ず不安定な位置に置かれる。図４及び図５に、途中位置の一例を示す。このような状況において前記星形状には、スパイラルスプリング２８の力の影響下にあるデテント２６が調節ディスク１４の縁を自身が前記谷間のうちの１つで静止するまで斜め方向に押圧して調節ディスク１４を回転させるという効果がある。これにより、隣り合う谷間の間にある途中位置への設定を防ぐことができる。
以下に本発明の態様を示す。
[態様１]　医療用流体搬送システムの流量を調節する調節装置（１０）であって、複数の可能流量のうちの１つを選択する選択ホイール（１２）と、前記選択ホイール（１２）に接続されており、所望の流量を調節するために設けられた調節ディスク（１４）と、前記調節ディスク（１４）の外縁と協働するデテント（２６）と、を備える、調節装置（１０）において、前記調節ディスク（１４）が、星形状を有することを特徴とする、調節装置（１０）。
[態様２]　態様１の調節装置（１０）において、前記星形状が、前記調節ディスク（１４）の径方向外縁のジグザグ形状を形成しており、当該ジグザグ形状が、山頂（２４）および谷間（２２）を含むことを特徴とする、調節装置（１０）。
[態様３]　態様２に記載の調節装置（１０）において、前記谷間（２２）のそれぞれが、前記選択ホイール（１２）及び前記調節ディスク（１４）の、各流量を調節するのに要求される回転位置のうちの１つに対応することを特徴とする、調節装置（１０）。
[態様４]　態様２または３に記載の調節装置（１０）において、前記山頂（２４）のそれぞれが、前記選択ホイール（１２）及び前記調節ディスク（１４）の、対応流量の互いに隣り合う２つの回転位置の、ちょうど間に位置した回転位置に対応することを特徴とする、調節装置（１０）。
[態様５]　態様２から４のいずれか一項に記載の調節装置（１０）において、前記ジグザグ形状の隣り合った線（１８，２０）が、互いに対して１０°～１５５°の範囲内の角

度で配置されていることを特徴とする、調節装置（１０）。
[態様６] 態様２から５のいずれか一項に記載の調節装置（１０）において、前記山頂（２４）および／または前記谷間（２２）は、それぞれ丸みが付けられていることを特徴とする、調節装置（１０）。
[態様７] 態様１から６のいずれか一項に記載の調節装置（１０）において、前記デテント（２６）は、スプリング（２８）の力に抗して、当該デテント（２６）と谷間（２２）との係合が前記調節ディスク（１４）の安定な位置を引き起こし、当該デテント（２６）と山頂（２４）との係合が前記調節ディスク（１４）の不安定な位置を引き起こすように支持されていることを特徴とする、調節装置（１０）。
[態様８] 態様１から７のいずれか一項に記載の調節装置（１０）において、前記デテント（２６）が、スパイラルスプリング（２８）における突部として形成されていることを特徴とする、調節装置（１０）。
[態様９] 態様７に記載の調節装置（１０）において、前記デテントが、スプリング（２８）に接続されたスパイクとして形成されていることを特徴とする、調節装置（１０）。